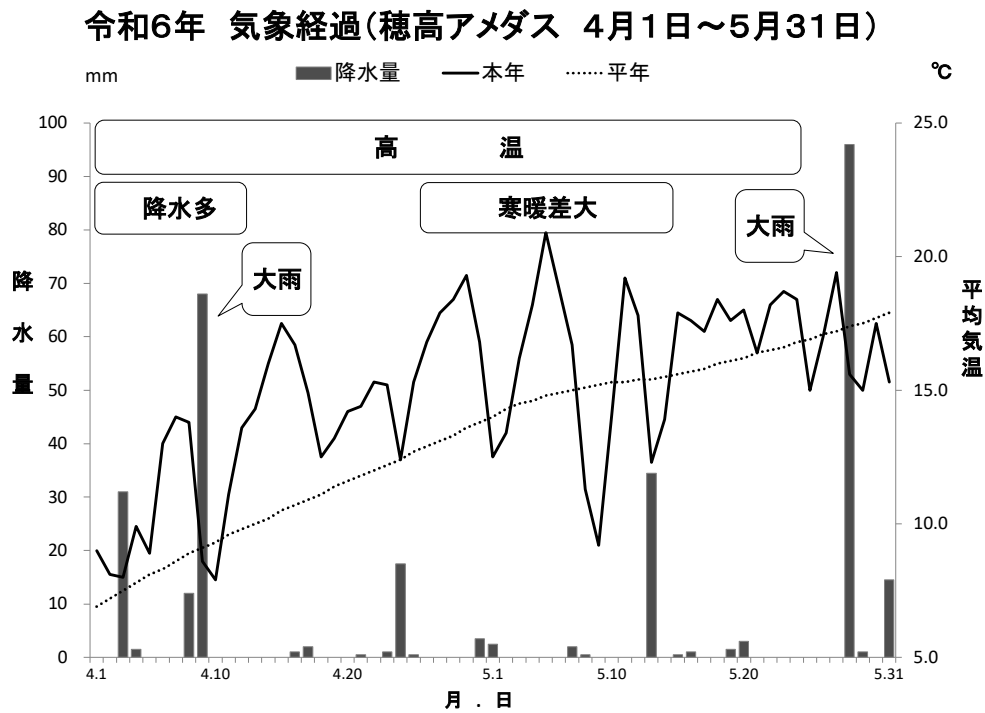


## 令和6年 作物技術普及情報 第10号 (麦の生育状況・成熟期予測等について)

### 1 気象状況



- ・ 3月末から高温が続き、5月からは寒暖差も大きくなっています。また4月中旬以降は大雨の日を除き、降水量の比較的少ない状況が続いています。
- ・ 5月30日気象庁発表の1か月予想では、気温は平年並ですが期間の前半は低く、後半は高いと予想されています。また降水量は平年並～多いと予想されています。

## 2 麦の生育状況及び収穫について

- 6月3日現在、生育の良好な圃場の現在の生育ステージは、以下の通りと思われます。生育は平年より7日程度進んでいると思われます。

【大 麦】	収穫中～収穫直前
【小 麦】	登熟中期

- 大麦は収穫が始まっています。5月13日、28日の大雨や強風の影響で倒伏した圃場では収穫しにくい状況になっています（松本方面）。一方で湿害による根の生育不良と高温・強風の影響で、強制登熟となつて穂が白く枯れあがった圃場も見られます（安曇野方面）。

- 小麦の生育は概ね順調ですが、湿害による生育ムラの目立つ圃場もあります。

- 5月31日現在の積算気温による成熟期の推定では、以下が予想されていますので、コンバインや乾燥施設の稼働準備を早めに進めるようお願いいたします。

---

### 大麦

出穂期	4月18日前後	成熟期	5月29～6月1日頃	
	4月23日前後		6月 2～ 5日頃	
	4月28日前後		6月 6～ 9日頃	

---

### 小麦

出穂期	4月28日前後	成熟期	6月17～ 19日頃
	5月 3日前後		6月20～ 23日頃
	5月 8日前後		6月24～ 27日頃

---

## 【参考】 登熟積算気温による大・小麦の成熟期の推定(5月31日現在)

成熟期までの積算気温を大麦は650～700℃、小麦は850～900℃として推定しています。

平均気温は穂高アメダス値です。5月31日までは本年値、以降は平年値を用いています。

syou	平均気温	大 麦				小 麦					
4月15日	17.5										
4月16日	16.7										
4月17日	14.9										
4月18日	12.5	4月18日出穂圃場									
4月19日	13.2	13									
4月20日	14.2	27									
4月21日	14.4	42									
4月22日	15.3	57									
4月23日	15.2	72	4月23日出穂圃場								
4月24日	12.4	85	12								
4月25日	15.3	100	28								
4月26日	16.8	117	45								
4月27日	17.9	135	62								
4月28日	18.4	153	81	4月28日出穂圃場		4月28日出穂圃場					
4月29日	19.3	172	100	19	19						
4月30日	16.8	189	117	36	36						
5月1日	12.5	202	129	49	49						
5月2日	13.4	215	143	62	62						
5月3日	16.2	231	159	78	78	5月3日出穂圃場					
5月4日	18.2	250	177	96	96	18					
5月5日	20.9	270	198	117	117	39					
5月6日	18.8	289	217	136	136	58					
5月7日	16.7	306	234	153	153	75					
5月8日	11.3	317	245	164	164	86	5月8日出穂圃場				
5月9日	9.2	326	254	173	173	95		9			
5月10日	14.1	341	268	187	187	109		23			
5月25日	15.0	591	519	438	438	360		274			
5月26日	17.0	608	536	455	455	377		291			
5月27日	19.4	628	555	474	474	396		310			
5月28日	15.6	643	571	490	490	412		326			
5月29日	15.0	成	658	586	505	505	427	341			
5月30日	17.5	成	676	603	523	523	444	358			
5月31日	15.3	成	691	619	538	538	460	374			
6月1日	17.9	成	709	637	556	556	478	392			
6月2日	18.0		727	成	655	574	574	496	410		
6月3日	18.2		745	成	673	592	592	514	428		
6月4日	18.3		763	成	691	610	610	532	446		
6月5日	18.5		782	成	710	629	629	551	465		
6月6日	18.6		800		728	成	647	569	483		
6月7日	18.8		819		747	成	666	588	502		
6月8日	18.9		838		766	成	685	607	521		
6月9日	19.0		857		785	成	704	626	540		
6月10日	19.1		876		804		723	645	559		
6月11日	19.2		895		823		742	664	578		
6月12日	19.4		915		843		762	684	598		
6月13日	19.5		934		862		781	703	617		
6月14日	19.6		954		882		801	723	637		
6月15日	19.7						821	742	656		
6月16日	19.8						840	762	676		
6月17日	19.9						成	860	696		
6月18日	20.0						成	880	716		
6月19日	20.1						成	900	736		
6月20日	20.2							921	756		
6月21日	20.3							941	成	777	
6月22日	20.4							961	成	797	
6月23日	20.5							982	成	818	
6月24日	20.6							1002		838	
6月25日	20.8							1023	945	成	859
6月26日	20.9							1044	966	成	880
6月27日	21.0							1065	987	成	901
6月28日	21.1							1086	1008		922
6月29日	21.3							1107	1029		943
6月30日	21.4							1129	1051		965

- 成熟期は麦の生育状況や今後の気象状況で前後します。湿害を受けて穂数が少ない圃場や根の生育の劣る圃場、極端にやせた圃場では、予想より成熟が早まる可能性があります。

また登熟期間中に気温が高く、降雨の少ない状況が続くと、予想より成熟が早まる可能性があります（例：平成27年）

今後の麦の成熟状況にご注意ください。

- 早刈りや刈り遅れ、高水分麦の収穫は品質を低下させます。収穫開始時期の判断がポイントになりますので、圃場の生育状況にご注意いただき、適期収穫チャートを参考に、圃場での成熟状況を確認し、適期収穫をお願いします。
- 本年も湿害により生育ムラが目立つ圃場があり、成熟ムラも予想されるため、収穫時期の判断が難しい年になると思われま

収穫にあたっては、圃場毎の生育状況を把握し、収穫目合わせの回数を増やして、どの圃場から刈り取りを開始するか？、どの順番で刈り取りを進めるのか？ と言った話し合いをこまめに行い、凍霜害被害により生育ムラの大きかった令和3年の対応も思い出していただき、収穫作業にのぞんでいただければと思います。

以下に、刈り取りの順番を作成しましたのでご参考下さい。

#### 【刈り取り順番】

- 1 成熟が概ね均一な圃場から収穫する。その後に成熟が不均一な圃場を収穫する
- 2 成熟が不均一な圃場は、成熟した部分の割合が多い圃場から収穫する
- 3 最後に成熟が一番遅れている圃場を収穫する

- 畔回りにカラスノエンドウの多い圃場が散見されます。カラスノエンドウの種子が麦に混入してクレームとなる事があるので、収穫前の畦畔の草刈りの徹底をお願いします。

### 3 麦の赤かび病について

- 出穂期～開花盛期後から2週間位の間（特に開花期間中）は、降雨期間中の気温が高く、降雨期間が長いほど感染しやすくなります。  
また降雨期間中の気温が低くても、降雨期間が長いほど感染リスクが高まるので注意が必要です。
- 6月3日現在、支援センターの巡回では、赤かび病の病斑は確認していませんが、5月28～29日に感染好適条件、6月3日に準感染好適条件が出現しており、6月3日付で病害虫防除所から赤かび病に関する注意報が発表されています。

これからも注意が必要な生育ステージです。今後気温が高めに推移し、降雨が続くと赤かび病が発生する場合も考えられますので、今後もほ場での発生状況にご注意ください。

赤かび病が疑われる穂がありましたら、JAや支援センターまでご連絡ください。

### 4 コムギなまぐさ黒穂病について

- 昨年は県内の他産地で「コムギなまぐさ黒穂病」の発生が複数報告されました。「コムギなまぐさ黒穂病」の被害粒が生産物に混入すると独特のなまぐさい臭いが生産物全体に充満し、大きな問題になります。

この臭いは小麦の乳熟・糊熟期（6月上旬頃）が最も強いと言われてます。また本病の発生は、小麦の連作圃場の馬入れ部分や畔回りで認められる傾向があるので、特に連作圃場では、本病の発生にご注意ください

- もし発生が認められた場合は、JAに連絡をお願いいたします。発生の判断に迷った場合は、JAや支援センターご相談ください。

またRCに収穫物が搬入された場合は、被害粒の混入がないか、匂いによるチェックも必ずお願いいたします（特に連作圃場の生産物についてはご注意ください）